

カガクで
ネガイを
カナエル会社

カネカは実験カンパニー

kaneka

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第98期 中間報告書

2021年4月1日 - 2021年9月30日

株式会社 **カネカ**

カネカは世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.



カネカは、地球の命に心を寄せ、食べ物を健やかにする、
人間や動物を元気にする、ビジネスに活気を与える、そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、
さまざまなソリューションを通じて、社会と人々の願いをかなえていきます。

カネカは命を育む社会を支えます。

トップメッセージ



代表取締役 社長

田中 稔

株主のみなさまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。2021年度上半期の業績および今後の見通しについてご説明申し上げます。

➤ 世界経済の状況

当上半期の世界経済は、新型コロナ感染の再拡大により不透明な局面が続くなかで、経済活動は着実に活発化し、各国の経済政策・金融緩和の下支えもあり回復基調となりました。しかしながら、半導体部品や資材不足による、自動車、住宅などの供給遅れ、ロジスティクスの混乱や原材料・エネルギー価格の高騰など不透明な事業環境が続いています。

➤ 当社グループの業績

このような状況のなか、当社グループの上半期の連結業績は、売上高3,303億円(前年同期比23.8%増)、営業利益230億円(前年同期比227.2%増)、経常利益209億円(前年同期比420.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益148億円(前年同期比496.2%増)となりました。
第2四半期は、売上高が過去最高を更新し、営業利益は100億円を超える高水準で推移しています。また上半期では、すべての事業セグメントで増収増益となりました。

先端事業群においては、新型コロナウイルスの感染が再拡大するなか、Health Care Solutions Unitはバイオロジクスの能力増強設備の生産スタートやPCR検査キット・検査試薬の販売拡大、血液浄化新製品の上市が寄与し、事業業績は着実に進捗しました。E&Iはリモートワークが拡大するなか、スマホ、PC向けポリイミド製品、大型TV向けアクリルフィルム用樹脂の販売が伸長しました。また、カーボニュートラルに向けた環境負荷低減への取り組みが急速に進展し、当社のユニークな技術による太陽電池のニーズが高まっています。一方、コア事業では、原材料価格が高騰するなか、グローバル拠点網を活かして海外需要を着実に取り込み、MOD、MS、Fiberなどで収益基盤を強化しました。ポートフォリオの変革は着実に進んでいます。

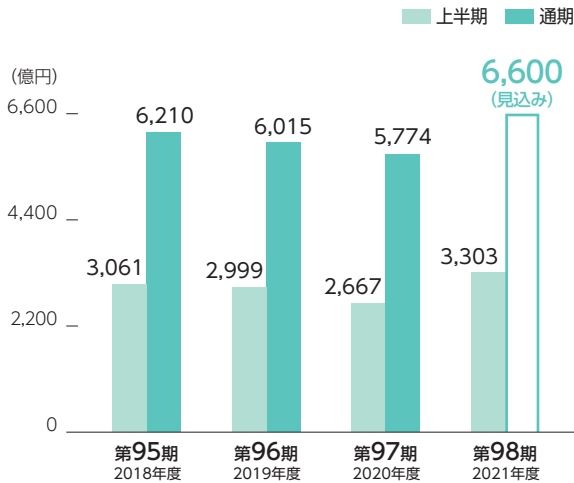
➤ 今後の見通し

IMFが2021年の世界経済見通しを下方修正しました。景気の不透明感は続いています。先進国の需要が回復しつつある一方で、新興国では、デルタ株の感染拡大、グローバルなサプライチェーンの混乱など不安定な状態が広がっています。また原材料、エネルギー価格の高騰、中国の電力規制問題など、経済のブロック化が進み、先行きを見透すことが増々難しくなっています。第3四半期以降については、事業環境の不透明感があるものの、当社の強いモメンタムが続くと考えています。
引き続き、事業構造改革に取り組み、収益基盤強化に努めてまいります。

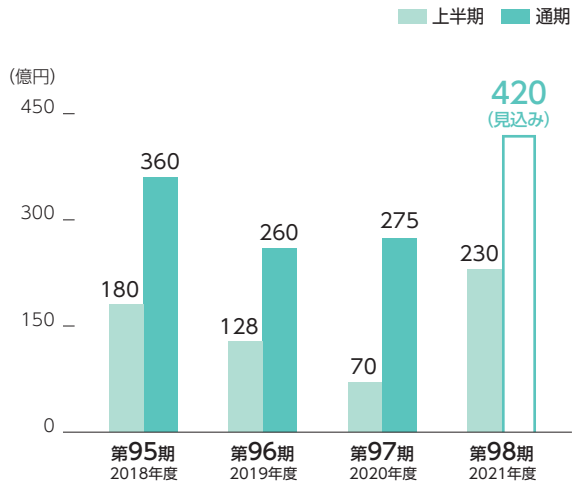
中間配当金につきましては、1株当たり50円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結業績ハイライト（推移/2021年度上半期および通期見込み）

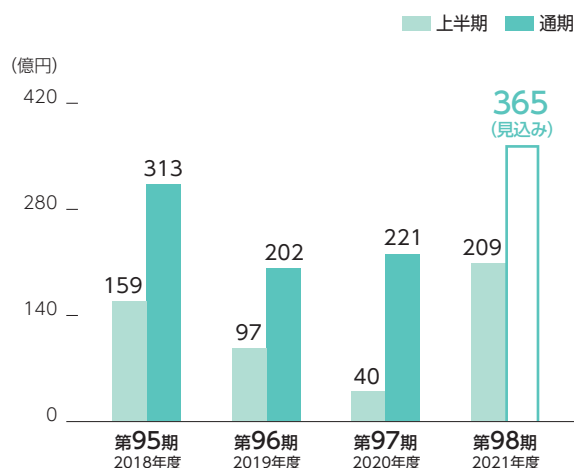
▶ 売上高



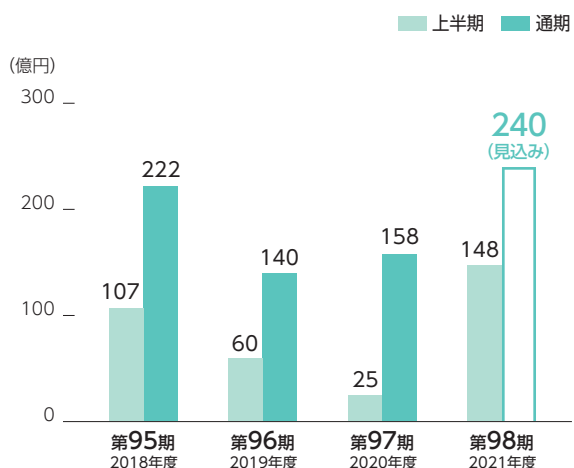
▶ 営業利益



▶ 経常利益



▶ 親会社株主に帰属する当期純利益

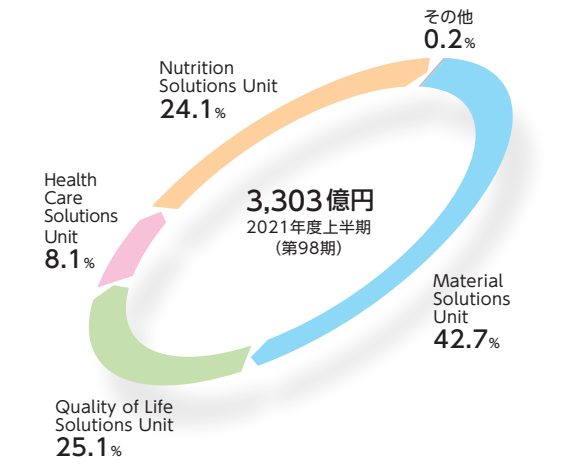


セグメント別概況（2021年度上半期）

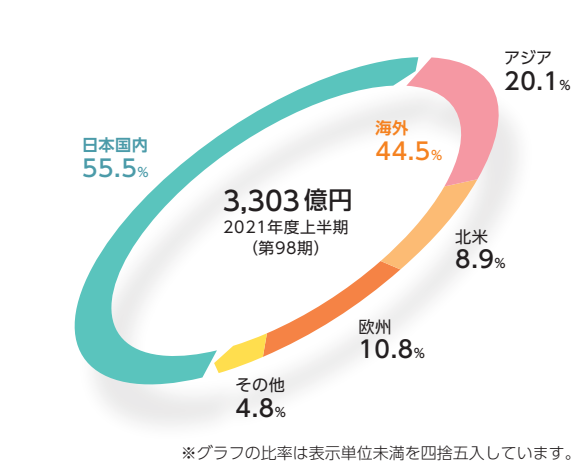
▶ セグメント別売上高・営業利益 (単位: 億円)

	売上高		営業利益	
	2021年度上半期 (第98期)	前年同期比	2021年度上半期 (第98期)	前年同期比
Material Solutions Unit	1,409	364 (34.8%)	180	106 (143.6%)
Quality of Life Solutions Unit	827	191 (30.0%)	93	54 (137.3%)
Health Care Solutions Unit	266	22 (8.8%)	53	3 (5.7%)
Nutrition Solutions Unit	795	60 (8.1%)	21	7 (45.6%)
その他	5	△1 (△11.4%)	3	△1 (△26.4%)
調整額	—	—	△119	△8 (—)
計	3,303	636 (23.8%)	230	160 (227.2%)

▶ セグメント別売上高構成比



▶ 地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

各Solutions Unitの詳細は次のページをご確認ください。▶

セグメント別概況

Earthology Chemical Solution／持続的で快適な生活環境を創造する

Material Solutions Unit

Material Value Creator

素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

- Vinylsは、PVCでアジア市場の旺盛な需要が続く、苛性ソーダは海外市況が上昇しました。
- MODは、欧米建築用途の需要好調に加え、非塩ビ用途（自動車、PC・家電向け）が世界的に拡大しています。
- MSは、ニューフロンティアアジアの拡販が加速しています。欧米を含むグローバルな全体需要が順調に拡大を続けています。更なる能力増強を検討してまいります。
- 生分解性ポリマー「Green Planet®」は、新しい採用の拡大が続いています。引き合いが活発化するなか環境負荷低減に関心が高い世界中のブランドホルダーとの大型共同開発が進展しています。本格的な生産能力増強に向けて設備計画の詰めを急いでいます。

Quality of Life Solutions Unit

Quality of Life Pathfinder

素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

- Foamのスチレン系発泡樹脂、押し出し発泡ボードは、販売は堅調に推移しましたが、原材料高騰の影響を受けました。発泡ポリオレフィン、自動車向け需要回復が遅れています。
- PVは、「脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方」が8月に政府公表され、再生可能エネルギーの普及促進が活発になるなか太陽光発電の実装拡大に弾みが付いています。当社の高効率太陽電池の戸建て・集合住宅向けの販売拡大が加速しています。
- E&Iは、スマートフォンや有機ELディスプレイ用のポリイミド製品、大型TV向けのアクリルフィルム用樹脂の販売が好調に推移しています。
- Fiberは、アフリカ向け頭髮製品の旺盛な需要が続くとともに、難燃資材向けの販売も堅調に推移しています。

Active Human Life Solution／健康で活力に満ちた人生を支える

Health Care Solutions Unit

Medical Edge Explorer

革新医療により多くの患者に届けられる世界を創る

- Medicalは、新規投入した閉塞性動脈硬化症治療用の血液浄化器の販売が大幅に増加しました。カテーテルは脳動脈瘤塞栓コイルなど、海外向けを中心に販売が拡大しました。新たにコロナウイルス変異株PCR検査キットを販売しました。コロナ感染拡大防止に貢献してまいります。
- Pharmaは、バイオ医薬品では、カネカユーロジェンテック社の増設ラインでのコロナワクチンの受託製造がスタートし、研究試薬・検査診断サービスが好調に推移しています。低分子医薬品はAPI案件が順調に進展しました。

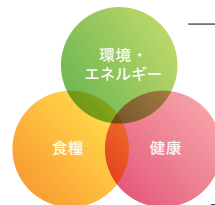
Nutrition Solutions Unit

Nutrition Value Chain Innovator

食と健康に革新をもたらす

- Supplementは、「免疫力アップ」意識の高まりを背景に、還元型コエンザイムQ10の販売が好調に推移しました。国内でも「わたしのチカラ™」還元型コエンザイムQ10配合シリーズが「一過性のストレスを感じている方の睡眠の質の向上」「一過性のストレスの軽減」「お口の潤い」など新たな機能性表示を取得しました。商品のラインナップを強化しています。
- Foods & Agrisは、需要が回復してきていますが、油脂原料価格の大幅な上昇の影響を受けています。リニューアルした「ベルギーヨーグルト ピュアナチュラル™」など高付加価値品を拡販し、収益性の向上に努めています。「別海ウェルネスファーム」牧場では搾乳を開始しました。有機酪農を通じサステナブル社会への貢献や本物志向の乳製品の品揃え強化を加速させます。





特集：KANEKA thinks “Wellness First”. 「3つのクライシス」へのソリューション

今回のテーマ
環境

カネカ生分解性ポリマーGreen Planet®の 社会実装を急ぎ、サステナブルな社会を目指します。

当社は世界のクライシスに対して3つの重点分野を定めていますが、今回の特集は「環境」を切り口に、世界中から注目されている生分解性ポリマーGreen Planet®（以下、Green Planet®）をテーマとして取り上げました。

Green Planet®の優れた特徴

Green Planet®は植物原料（バイオマス）から培養法で製造され、生分解性と海洋分解性を併せ持つ、世界に類をみない環境適合素材です。化石原料に頼らず微生物の力で合成され、さまざまな製品に加工され、使用後は土壌中や海水中で分解されるため、環境汚染の心配がありません。

このようなユニークな特性が認められ、環境負荷低減に関心の高いブランドホルダーや、自治体などから活発な引き合いをいただき社会実装が進んでいます。本特集では、それらの代表例をご紹介します。

社会実装の進展

まず、日本では大手のコンビニエンスストアや飲料メーカーでGreen Planet®の採用が進んでいます。株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社ファミリーマート、株式会社伊藤園などではGreen Planet®を原料にしたストロー、カトラリー（スプーン、フォーク）の使用が開始されました。

また、株式会社JALUXのショッピングバッグに採用されるなど、従来は使い捨てプラスチックが使用されていた用途からの切り替え例が増えています。



伊藤園の紙パック飲料とGreen Planet®を使用した伸縮ストロー

「ファミマ!!」のGreen Planet®を使用したスプーン
耐水性などの機能面に優れた、Green Planet®を使用したショッピングバッグ

当社はESG経営を実践し、世界を健康にする「健康経営-Wellness First」を目指します。世界のクライシスに対して貢献できる分野を「環境・エネルギー」「食糧」「健康」に決めました。

3つのクライシス

環境・エネルギー

食糧

健康

欧米では、コンポスト（生ごみの堆肥化）を妨げないように食品包装に用いられるプラスチックを生分解素材に変える動きが活発になっています。Green Planet®で作ったコーヒーカプセルは、コーヒー抽出後にカプセルごと生ごみと一緒にコンポスト化できるため急速に採用が拡大しています。また、Green Planet®はスナック菓子の包装袋のコンポスト化にも対応できるため、菓子メーカーとの共同開発も開始しています。

さらにGreen Planet®は農業の分野でも注目され、マルチフィルムや育苗ポットへの適用も進んでいます。その優れた生分解性から、フィルムやポットを使用後に回収する手間が不要になり、農作業の効率化にも大きく貢献できます。

サステナビリティ

Green Planet®は調理に使った後の廃油を原料として使うことも可能です。自治体と協力し、「廃油回収～Green Planet®の合成～生ごみ回収袋の制作」といった循環型環境素材としての実証事業も進めています。

社会課題の解決に向けて

プラスチック素材の製品は、私たちの暮らしにとって便利で欠かせないものになっています。その一方で、海中に漂うマイクロプラスチックなど、適切な処理がなされないことによって生態系や人々の健康へ影響を与える懸念が高まっています。

当社はTCFD*提言への賛同を2021年3月に表明し、取り組むべき項目の一つとして「循環型社会への貢献」を掲げました。環境負荷低減に貢献する素材としてのGreen Planet®の用途展開をこれからも加速させ、環境問題へのソリューションを提供してまいります。

※ G20の要請により金融安定理事会が設置した「気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の略称。



還元型コエンザイム新シリーズ！ ～「わたしのチカラ™」(機能性表示食品)～

当社は、還元型コエンザイムQ10でこれまで訴求してきた「一過性の疲労感の軽減」に加え、このほど「一過性のストレスを感じている方の睡眠の質の向上」、「一過性のストレスの軽減」ならびに「お口の潤い」に役立つという機能性表示が可能になり、「わたしのチカラ™」シリーズの新製品を販売開始しました。

私たちの体は、約37兆個の細胞でできています。そして、全ての細胞の中に、ミトコンドリアという器官(工場)があります。ミトコンドリアは体重の約10%を占め、私たち人間が毎日元気に生活するためのエネルギーを生みだしています。還元型コエンザイムQ10は、このミトコンドリアに存在し、エネルギーを作るお手伝いをしています。また、還元型コエンザイムQ10には、エネルギーを作る時にも発生する活性酸素を除去する抗酸化作用もあります。

カネカユアヘルスケア株式会社(本社:東京都港区、社長:長江正二)では商品のリニューアルを行い、新ブランド「わたしのチカラ™」を立ち上げました。この名前には、みなさま自身が本来持っているさまざまなチカラをひき出し、健康な毎日に役立ちたいという想いを込めています。

今回発売したのは、一過性のストレスを感じている方の睡眠の質の向上・一過性のストレスの軽減に役立つ機能がある「わたしのチカラ™ ENERGY™(エナジー)」と、加齢とともにお口の潤いが不足がちと感じる方に適した「わたしのチカラ™

MOISTWELL™(モイストウェル)」の2商品です。ぜひ当社グループWebサイトをご覧ください。【カネカユアヘルスケア通販WebShop(<https://www.kaneka-yhc.co.jp/>)】

当社は、「カネカは世界を健康にする。KANEKA thinks “Wellness First”.」という考えのもと、還元型コエンザイムQ10でこれからも幅広い機能を訴求した新商品開発を進めるとともに、乳酸菌やその他の成分の配合により、お客様がニーズに合わせて選べるように、今後も順次ラインナップを充実し、みなさまの健康と、より良い毎日を全力で応援していきます。



新たに発売された「わたしのチカラ™ ENERGY™」と「わたしのチカラ™ MOISTWELL™」

※ 機能性表示食品とは、国の定めるルールに基づき、事業者が食品の安全性と機能性に関する科学的根拠などの必要事項を、自らの責任において、販売前に消費者庁長官に届出することで、「機能性」を表示することが可能になった商品のこと。この届出において機能性の科学的根拠を示す資料(システマティックレビュー)や安全性情報などの提供が可能となった。

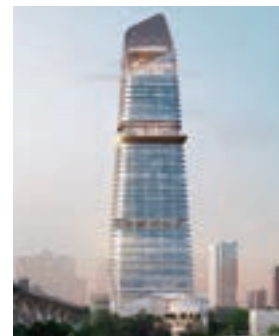
クリーンな社会を支える ～高効率太陽電池の社会実装と研究開発の促進～

昨年、政府が公表した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」では、14の重点産業分野について高い目標を掲げ、現状の課題と今後の取り組み方法を明らかにし、規制改革・標準化、国際連携などクリアすべき政策的課題を盛り込んだアクションプランが示されました。

その重点分野に「洋上風力・太陽光・地熱産業(次世代再生可能エネルギー)」、「住宅・建築物産業・次世代電力マネジメント産業」が挙げられ、ZEH・ZEBの普及、壁面や窓、工場屋根などにも設置できる次世代型太陽電池の開発プロジェクトが計画されています。

当社は、戸建住宅への瓦一体型太陽電池を中心としたトータルソリューションや、ビルの側面に設置する「発電する壁・窓」などユニークな技術の提供によりZEH+ZEBの推進に貢献しています。

独自の技術を活かしさまざまな組織・企業との協業・共同開発を通じて価値ある差別化技術の社会実装に注力しています。



タイに建設予定の高層ビルのイメージ図(外壁にT-Green® Multi Solarの搭載を計画)

- ※1 「T-Green®」は大成建設株式会社の登録商標。
- ※2 ヘテロ接合技術とバックコンタクト技術を組み合わせた結晶シリコン太陽電池。ヘテロ接合技術は物性の異なる半導体材料を接合する技術で、結晶シリコンとアモルファスシリコンの組み合わせによる欠陥低減や、電気に変換できる光の波長が異なる材料を組み合わせることで変換効率を向上させることができる。バックコンタクト技術は太陽電池の裏側にのみ電極をつくり電気を取り出す技術で、電極を裏面に集約することで、受光面を広くできるため、変換効率を高めつつ、意匠性も向上させることができる。
- ※3 発電層にペロブスカイト構造と呼ばれる結晶構造を有する材料を用いた新しい太陽電池。塗布法により形成することができ、小面積ながら結晶シリコン太陽電池にも匹敵する変換効率を得ることができる。

大成建設株式会社と共同開発した「T-Green® Multi Solar (シースルータイプ)※1」は、建築ガラスの一種として高層ビルの外装にも設置可能な製品で、海外の高層ビルの外壁にも導入が計画されています。また、建物の東西南北面に設置することで建物にて消費される電力ならびにCO₂排出の削減に貢献します。

当社は、シリコン太陽電池の世界最高効率をもつ「ヘテロ接合バックコンタクト結晶シリコン太陽電池※2」の社会実装に向け、車載用曲面太陽電池モジュールの量産技術開発を開始しました。さらに、次世代太陽電池として期待される「軽量フレキシブルペロブスカイト太陽電池※3」の開発を進めており、今後、当社の薄膜太陽電池モジュール量産技術を横展開することで、実用化に向けたセル・モジュール技術開発を加速いたします。

当社は、「環境にやさしい、健康で安全な暮らし」、すなわち「人間性の回復」に貢献するため、地球環境・エネルギー問題に応える事業に取り組んでいきます。



車載ルーフ用曲面太陽電池モジュールのイメージ図

カネカ×鹿島アントラーズで創る サステナブルな社会の実現を目指して

GO with アントラーズ! ～夢を一緒にみたい～

当社は、株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シーとオフィシャルパートナー契約を締結しました。

鹿島アントラーズは、茨城県の鹿嶋市や当社鹿島工場が位置する神栖市など近隣5市をホームタウンとするJリーグ最多20冠のタイトル獲得数を誇る名門クラブです。当社はESG経営方針「カネカは世界を健康にする。KANEKA thinks “Wellness First.”」のもと、化学の無限の可能性を活かすサステナブルな人間賛歌の経営に取り組んでいます。スポーツは人間賛歌のLanguageです。鹿島アントラーズのチームアイデンティティ「FOOTBALL DREAM」(サッカーを通じ、夢を見て、夢を与え、夢をかなえていくこと)は、当社の目指す「人間賛歌の経営」[Dreamology Company]とも共通する理念です。

当社は、「環境・エネルギー」「食糧」「健康」という、地球が抱える3つのクライシスの解決に貢献することを目指しています。世界を健康にし、この世界を「元気にする」「未来を明るくする」ために、夢を一緒に見たい。鹿島アントラーズと手を携えて共通の理念の実現に向けて取り組んでいきます。

鹿島アントラーズには、100%植物由来の環境貢献素材「カネカ生分解性ポリマーGreen Planet®(以下、Green Planet®)」をはじめとする当社の社会課題に対するソリューションに共感いただいております。当社が持つ

技術や製品と一緒に世界に伝えてまいります。

まず、グリーンで持続可能な社会を目指す取り組みとして、県立カシマサッカースタジアム内飲食店での飲食物購入時にGreen Planet®のストロー、スプーンの提供を開始しました。今後は同スタジアムでの物品販売やアントラーズオフィシャルショップの手提げ袋などにも展開します。

また、還元型コエンザイムQ10などのサプリメント製品や循環型有機酪農による乳製品などを活用し、選手やサポーターをはじめ消費者のみなさまの健康を支える取り組みを進めてまいります。



左から、上田綺世選手、カネカ 代表取締役会長 菅原公一、
鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長 小泉文明、
町田浩樹選手©KASHIMA ANTLERS

連結財務諸表

▶ 四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科 目		第98期 2021年9月30日現在	第97期 2021年3月31日現在
資 産	流動資産	3,287	3,090
	固定資産	3,579	3,584
	資産合計	6,865	6,674
負 債	流動負債	2,112	2,123
	固定負債	786	741
	負債合計	2,898	2,864
純 資 産	株主資本	3,541	3,422
	その他	426	389
	純資産合計	3,967	3,810
負債純資産合計		6,865	6,674

Point

- **総資産**は、棚卸資産の増加等により前期末に比べて191億円増の6,865億円となりました。
- **負債**は、買掛金の増加等により34億円増の2,898億円となりました。
- **純資産**は、利益剰余金の増加等により157億円増の3,967億円となりました。

▶ 四半期連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科 目	第98期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	第97期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
売上高	3,303	2,667
営業利益	230	70
経常利益	209	40
税金等調整前四半期純利益	209	39
親会社株主に帰属する四半期純利益	148	25

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ636億円の増収(前年同期比23.8%増)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ160億円の増益(前年同期比227.2%増)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ169億円の増益(前年同期比420.0%増)となりました。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前年同期に比べ123億円の増益(前年同期比496.2%増)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科 目	第98期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	第97期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	201	282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 169	△ 228
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 36	△ 30
現金及び現金同等物の四半期末残高	464	399

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により201億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により169億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により36億円の支出となりました。
- この結果、**現金及び現金同等物の当第2四半期末残高**は、464億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2021年9月30日現在)

▶ 会社の概要

社 名 株式会社 **カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂1丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL (03)5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
(本店) 大阪市北区中之島2丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL (06)6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 役員

代表取締役会長	菅原	公一
代表取締役社長	田中	稔
取締役副社長	藤井	一彦
取締役専務執行役員	亀高	真一郎
取締役専務執行役員	石原	忍
取締役常務執行役員	泥	克信
取締役常務執行役員	榎	潤
取締役上級執行役員	角倉	護
取締役(社外)	井口	武雄
取締役(社外)	毛利	衛
取締役(社外)	草刈	隆郎
取締役(社外)	横田	淳
監査役(常勤)	松井	英行
監査役(常勤)	岸根	正実
監査役(社外)	藤原	浩
監査役(社外)	魚住	泰宏

▶ 株式の状況

発行可能株式総数 150,000,000株

発行済株式の総数 68,000,000株

株主数 18,339名

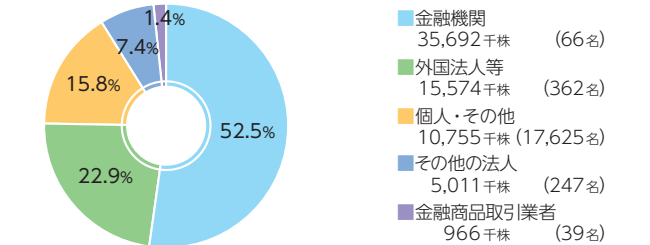
1人当たり平均持株数 3,708株

▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,116	10.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,554	5.45
日本生命保険相互会社	3,114	4.77
株式会社三井住友銀行	3,091	4.74
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	2,684	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.23
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	1,241	1.90
カネカ取引先持株会	1,196	1.83

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が2,760千株あります。

▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

株主様向けインフォメーション

▶ WEBサイトのご案内

株主・投資家のみなさまをはじめとするステークホルダーの方々に、より使いやすく、わかりやすく情報をお伝えしています。
今後も内容の充実に取り組むとともに、適時適切な情報開示を行ってまいります。

カネカ

<https://www.kaneka.co.jp/>

▼ トップページ



◀ 企業情報

会社案内をリニューアルしました!

カガクのチカラで
世界を健康にする
カネカの取り組み
をご紹介します。

▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)

(注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。

3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

〈カバーアート〉アーティスト：曾谷朝絵
・タイトル：Washbowl
・制作年：2021年

